



老朽化が進む西古泉水源地



加藤 博徳 議員

# 補助金等の申請書類の正当性確認はどこまで

要綱に従って許認可する官庁で審査する

## 問

補助金は税金での支出で、公正・公明でないとはならない。閉鎖的な執行権の行使では、町民は分からない。申請書類は、全項目担保確認が必要と思うがどうなのか。文章管理システムがあるか。

副町長

補助金を交付する場合、要綱に従って事務処理をする。書類に不備や誤りがある場合には修正を求め、確認をする。交付の要件を書類で満たされない場合は却下をする。

書類に誤りや漏れがなければ、支出に向けた手続を進める形になる。法人の認可が前提の場合、その法人の認可に係る許認可庁において審査をする。

## 水道会計の健全経営は

## 短期は料金改定、中長期は効率的な健全経営をめざす

## 問

水道事業会計が原価逆転現象の状態になりつつある。今後の需要の伸びが期待できない中で、値上げやむなしの状態だが、短期、中長期の戦略は。

町長

松前町の水道事業は、節水意識の向上など、今後とも使用水量の増加は見込めない。第6次拡張事業で恵久美、北伊予浄水場を建設したが、今後は浄水場の町債の償還などで多額の費用がかかり、内部留保資金も底をつく状況にある。経営の

安定化を図りながら、西古泉浄水場を早急に建設する必要がある。施設の効率的な維持管理、検針業務受付事務などの経常経費の削減など健全な経営状況を継続できる仕組みづくりを総合的に検討していく。